

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 鳥羽市	対談項目1 人口減少対策の推進について	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少対策は鳥羽市だけでなく、日本全体の大きな問題。 働く場所が大事で、企業誘致等色々取組を行ってきたが、鳥羽は袋道のようになっているため、企業の立地が出来ず、うまくいっていないのが現状。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少の要因は、自然減と社会減がある。県全体では、毎年、自然減では5,000人、社会減では3,000人減っている。 県全体でみると、自然減の方がより深刻ではあるが、社会減も過去と比べると増えてきているので、対応は重要。
鳥羽市	対談項目1 人口減少対策の推進について	今後の人口減少対策についての県の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 働く場所の取り組みも行ってきたが、鳥羽市は、子育て支援もしてきた。「海辺のまち鳥羽出逢い応援事業」や「定住応援事業奨励金」、「中学3年生までの医療費の無料化」、「2人目以降の保育料無料化」等を行ってきたが、効果はあるが、抜本的な解決には至っていない。 人口減少対策に県としてどう立ち向かうのか知事の考えをお聞かせください。 県南部では、工場を誘致しても道路交通網の問題がありコスト面で難しいが、学校の誘致等、鳥羽市のマイナス面が強調されないような業種について、この地域に誘致することを考えていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 県版総合戦略計画では、社会減については「学ぶ」、「働く」、「暮らす」といったライフシーンごとに対策を考え、自然減については「結婚」、「妊娠・出産」、「子育て」、「働き方」のライフステージごとに対策を考えることとしている。 自然減対策については、鳥羽市は県内でも先進的な取組をしていただいている。不育症の助成を鳥羽市がしていたことをきっかけに県でも取組を始め、今県内に広がっている。 社会減対策については、学ぶ場(高校・大学)の転出が多く、ここに抜本的にメスをいれていかなければならない。 南部地域活性化基金と南部地域活性化プログラムのリニューアルを議論しているため、定住が増えるような事業を重点化していけるようなリニューアルとしていきたい。
鳥羽市	対談項目1 人口減少対策の推進について	少子化対策について	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを産み育てられる社会に変えていく、子育て支援を社会がやるという考え方を定着させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年前と比べると、理想の子どもの数は3人が一番多いとの記事があった。県の未婚率は全国的に低い水準ではあるが、有配偶出生率が全国的に低いので、子育て支援に力をいれていかなければならないと考えている。
鳥羽市	対談項目1 人口減少対策の推進について	大学の誘致について		<ul style="list-style-type: none"> 大学に行きたい人は年に8,000人いるが、県内には3,000人の定員しかない。 県内の大学収容力指数が全国で46位とかなり低くなっている。 定員増を行うことは難しいと考えているが、県内の教育機関に魅力を持ってもらい、県内で働いてもらう取組として、現在、コンソーシアムを組んで県内の高等教育機関の魅力向上や単位互換、学部・学科の再編、看護大学の地域枠の増加等について検討を始めている。 高校についても、人口が減少してくると、普通科よりは物作りに特化したような専門性が求められる。高校の魅力アップにも検討を始めたところである。
鳥羽市	対談項目1 人口減少対策の推進について	鳥羽市の移住定住の取組について		<ul style="list-style-type: none"> 今年4月から、東京に移住相談センターを設けたところ、3か月で190件の相談があった。 市町と連携しながら、一人でも多くの人を呼び込めるようにしたい。
鳥羽市	対談項目1 人口減少対策の推進について	若者のUターン対策について		<ul style="list-style-type: none"> 県と県外にある大学とで協定を結び、働く場所の情報提供をして就職支援に取り組んでいきたい。三重県と同様に大学収容力指数が低い長野県では、すでに27の大学と協定を結んでいる。
鳥羽市	対談項目1 人口減少対策の推進について	企業誘致など働く場の創出について		<ul style="list-style-type: none"> 物流で差が出ない業種を誘致することは、重要なことであると考えている。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
鳥羽市	対談項目2 離島振興施策の推進について	現状と課題 今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県には6つの有人離島があり、そのうちの4つが鳥羽市にある。 ・離島は、景色がよく、漁業が盛んで歴史文化も残っており、離島振興に力を入れている。 ・鳥羽の離島ではあるものの、県の離島として考えていただき、力を入れていっていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度に「三重県離島振興計画」を策定したので、定住環境の整備のため、県も鳥羽市、志摩市と連携しながら取り組んでいきたい。
鳥羽市	対談項目2 離島振興施策の推進について	全国離島振興三重県支部連絡協議会の事務局を県に担ってほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、鳥羽市と志摩市で「全国離島振興三重県支部連絡協議会」を組織しており、鳥羽市が事務局を担っている。 ・他県では、県が事務局を担っているところもあり、県に事務局を担ってほしいわけではないものの、県も本気になって離島振興と一緒に考えていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡協議会の事務局を県が担っていないことについては、今後全国調査をしながら、離島振興にしっかり携わっていきけるような県の体制について検討していきたい。
鳥羽市	対談項目3 第76回国民体育大会開催に係る支援について	施設整備及び大会運営費の補助について	<ul style="list-style-type: none"> ・国民体育大会では、フェンシング競技が鳥羽市で行われるが、他県と比べると施設が見劣りするため、会場を立て直すか、リニューアルする必要がある。 ・県の施設整備にかかる補助は最高1億円だが、多少手薄感がある。 ・補助対象事業も必要最小限の整備、危険防止のための必要不可欠な整備しかみてもらえないような基準となっている。 ・運営費については、国からの支援はないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備については、財政状況も考え、コンパクトな国体といわれている中で、安全が確保される最低限の補助として、先催県の例を参考に制度を創設した。 ・まず、安全に競技運営ができる施設整備が大事だと考えている。 ・運営経費についても、先催県の例を参考にしながら、制度の構築に検討していきたい。 ・県の一定持ち出し分もあると聞いているので、しっかりと考えていきたい。
鳥羽市	対談項目4 「日本一海女の多い”県”」としてのプロモーションの展開について	ユネスコ無形文化遺産登録に向けての取組及び情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で、鳥羽市には500名程度の海女がおり、全国で一番海女が多いまちといえる。 ・鳥羽市では三世代海女を企画して、経済効果が50億ともいわれたことがある。 ・現在、東京の都営バスに海女のラッピングをして走ってもらっている。 ・今年度は地域おこし協力隊制度を活用して海女を募集したところ、6名の応募があり、内2名を採用した。後継者不足の中、ありがたいことだと思っている。 ・海外の方にも、海女と忍者はインパクトがあると思っている。数日前にも、海女についてアメリカから取材があり、近々、全米で放映されると聞いている。 ・鳥羽市は、「日本一海女の多い市」としてこれからもプロモーションを行っていくが、県も「日本一海女の多い県」として、世界に向けて情報発信をしていただきたい。 ・今年、答志島で海女サミットを開催するが、ぜひ安部首相夫人にも来ていただきたいと考えている。 ・海のないところにも海女はいるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の海女の保存や振興の機運を盛り上げることを目的として、「全国海女文化保存・振興会議」を9県で立ち上げた。 ・現在、38都道府県に「全国海女漁状況調査票」を配布し、取りまとめを行って、海女の実態を調べ、振興策について考えていこうとしているところである。これをふまえて、国の文化財として、ユネスコ登録指定へと向かっていこうとしている。 ・また、今年度は、国文化財指定の基礎資料映像となる映像記録「海女の一生」を製作している。 ・石川、福井、三重で11月から順に海女漁のパネル展示をして、情報発信に努めていこうとしている。 ・安部首相夫人には8月に会った時に、答志島の海女サミットのことをお伝えしている。
鳥羽市	対談項目4 「日本一海女の多い”県”」としてのプロモーションの展開について	海女漁に対する支援		<ul style="list-style-type: none"> ・漁業の振興の取組として、「アワビ種苗大型化実証実験」や「コンクリート板による放流漁場造成」、「赤ナマコ量産技術開発」を通して、所得向上に繋がる取組も行っているため、ご協力をお願いしたい。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
鳥羽市	対談項目5 地域減災力強化推進補助金の三重県の方向性について	地域減災力強化推進補助金の方向性について	<ul style="list-style-type: none"> ・県の補助金の方向性として、「避難対策」から「避難後対策」にシフトしていくと聞いたが、まだ「避難対策」も必要である。急に切り替えるのではなく、柔軟な対応をお願いしたい。 ・南海トラフの被害を限りなくゼロに近づけるよう、避難路整備は必要と考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災から5年経ち、避難対策については一定の整備が行われてきたところであるので、ここで一度検証して、市町でこれからどのような対策が必要なのかご意見を聞いて、来年度のメニューを決定していきたい。 ・大きな流れとして、「避難後対策」を考えてはいるが、整備半ばなところや新たな課題が生じているところについて、市町のご意見をよく聞いて検討していく。 ・避難路整備については国の嵩上げ措置ができたが、国と同じ補助を県でも残存させた方がよいのか、また嵩上げ対象外の未整備個所や課題が残る整備に注力した方がよいのか、市町の意見を聞きながら精査していきたい。
鳥羽市	(当日追加項目) 伊勢志摩サミットについて		<ul style="list-style-type: none"> ・鳥羽市でも民間の方も入った「おもてなし会議」を作って、サミット後も長年にわたる恩恵を受けるためにはどうしたらいいのか検討しており、2000万円の事業を考えている。 ・伊勢志摩サミットのメリットと注意点についてお聞かせいただきたい。 ・鳥羽市での配偶者プログラム開催についてご尽力いただきたい。特に「真珠」をアピールするようなプログラムを考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サミット成功には「安全であること」、「県下全域での取組」、「開催後に何かが残ること」の3つの要素が必要。 ・海外のプレスツアー、配偶者プログラム、ジュニアサミット、先遣隊等の色々なプログラムを通して、地域の知名度を上げていくことが大事。 ・事業者だけでなく、県民の皆さんに海外から来る方を「歓迎」の気持ちで迎えていただくことが、メリットの創出につながると思っているので、ぜひ協力いただきたい。 ・配偶者プログラムについては、伊勢志摩地域で、物見遊山ではなく対話をしてもらえるようなプログラムとなるよう外務省に提案していきたいと考えているので、地域のみなさんも一緒に考えていただきたい。